



紹介者

石塚 達郎

公益財団法人日立財団  
理事長

塚本 英彦

日本信号  
取締役社長



## 名古屋人の矜持<sup>きょうじ</sup>

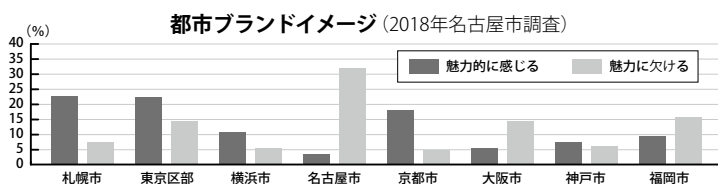
私は、大学の研究室の紹介で、東京に職を求めたと喧伝しているが、真実は異なる。

1980年前後、タレントのタモリさんは、ラジオ番組のオールナイトニッポンで、名古屋人を揶揄し、注目を集めていた。「エビフリヤー」「ミャーミャー猫語」「交差点でサイドブレーキ」「見栄っ張り・儉約家」等々。私は、元々東京に劣等感を持っていたので、「東京を、ちいとねあ見てみるか」となり、早速、教授に東京の会社を紹介していただいた。親父に相談すると「生き馬の目を抜く東京で働くことは、サラリーマンの王道だがや」ということで、すんなりと東京に就職となった。

あれから35年、人生の半分以上を東京で過ごしているが、名古屋へ帰省すると、あらゆるものを比べ、あらためて故郷の良さを感じる反面、周りからは「もーはい東京人だがや」と、決め付けられ、年々壁が高くなっていくのを感じる。

現在、名古屋市は、都市の魅力化が政策課題のひとつとなっているようだ。名古屋市が2016年に実施した全国8都市(札幌、東京23区、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、福岡)の「都市ブランドイメージ調査」では、名古屋市の魅力度は最下位であった。その後、魅力度向上活動を強化しているようであるが、18年の調査では、再度大差をつけて最下位を堅持する結果となった。

三英傑を輩出し、日本を代表する企業があり、名古屋を巧みに演出する市長がいて、県下には、住みやすさランキングで常に上位に入る4市があるにもかかわらず、これほどの圧倒的な不人気度を維持するのは至難の業である。これこそ、「こつこつ、メリハリ、もったいない」というSDGsを<sup>ほうふつ</sup>彷彿させる行動原則を古来より伝承する名古屋人の成せる業、加えて、竜を抱きながら東京ドームに通う私こそ、「名古屋人の矜持」真の伝承者かもしれない。



▶▶ 次回リレートーク

坂下 智保

富士ソフト  
取締役社長執行役員